

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

平成19年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご説明します。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

地域・保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をしていただけるようお願いいたします。

調査結果の概要

1 教科学習状況調査結果

<国語・算数結果>共通傾向

A問題 「知識」はおおむね理解しています

B問題 「知識・技能」を活用する力に課題があります

◇よい状況と考えられる内容

◆指導・改善が必要と考えられる内容

<国語>

討こと聞くこと◆話し方に関する知識や聞き方に関する知識の理解に課題がある

読むこと◇説明文を読んで段落の内容をとらえることはよくできている

◆二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめることに課題がある

書くこと◇目的や様式に応じて必要事項を選んで文章を置きかえる力が身についている

言語事項◇文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使うことがよくできている

<算数>

数と計算◇整数、小数、分数の四則計算がよくできている

量と測定◇基本的な平面図形やL字型の図形の面積を求めることがよくできている

◆地図から複数の図形を見出し、必要な情報を取り出して面積を比較し説明することに課題がある

図形◇角の大きさを求めたり作図したりするための三角形や四角形の性質を理解することがよくできている

数量関係◇伴って変わる二つの数量について、関係を表にまとめ変化の規則性を読み取ることがよくできている

◆与えられた条件を基に、百分率を用いて問題を解決することに課題がある

2 質問紙調査結果

○就寝時刻が遅く、起床時刻も遅い傾向がある

○普段の学習時間が長い（3時間以上）と回答した割合が高い

○地域への関心（地域のごみ拾い、行事への参加など）がやや低い

○規範意識（「近所の人にあいさつをする」「困っている人を助ける」）がやや低い

<今後の取組>

国語

- ・国語科に限らず、具体的な言語活動の中で、話すこと、聞くことについての知識・技能の定着を図っていきます
- ・文章の中で大事なことを取り出し、気付いたことや考えたことを簡潔にまとめる言語活動を充実していくようにします
- ・国語科に限らず、自分の考えをしっかりともち、記述できる力を育成していきます

算数

- ・問題場面から情報を読みとり、問題解決のために必要な情報を選んで考える活動の充実を図ります
- ・日常生活で百分率が用いられる場面について考える活動などを通して、百分率の意味の理解を深める指導を重視していきます

全国学力・学習状況調査実施の概要

1 調査目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。
- ・各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ること。

2 調査日時

平成19年4月24日（火）

3 調査内容

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

国語A、算数A 主として「知識」に関する問題

国語B、算数B 主として「活用」に関する問題

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

(2) 学校に対する調査（学校質問紙）

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況及び生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

4 調査対象

小学校6学年、中学校3学年

5 調査結果の公表や返却

(1) 公表の方向性

「実施に当たっては、子どもたちの学習意欲の向上に向けた動機付けを与える観点も考慮しながら、学校間の序列化や過度な競争等につながらないように十分な配慮が必要である」

- ・国、都道府県単位（47）
- ・地域の規模別（大都市、中核都市、その他の市、町村など）

(2) 返却

都道府県、市区町村、学校に調査結果を返却

